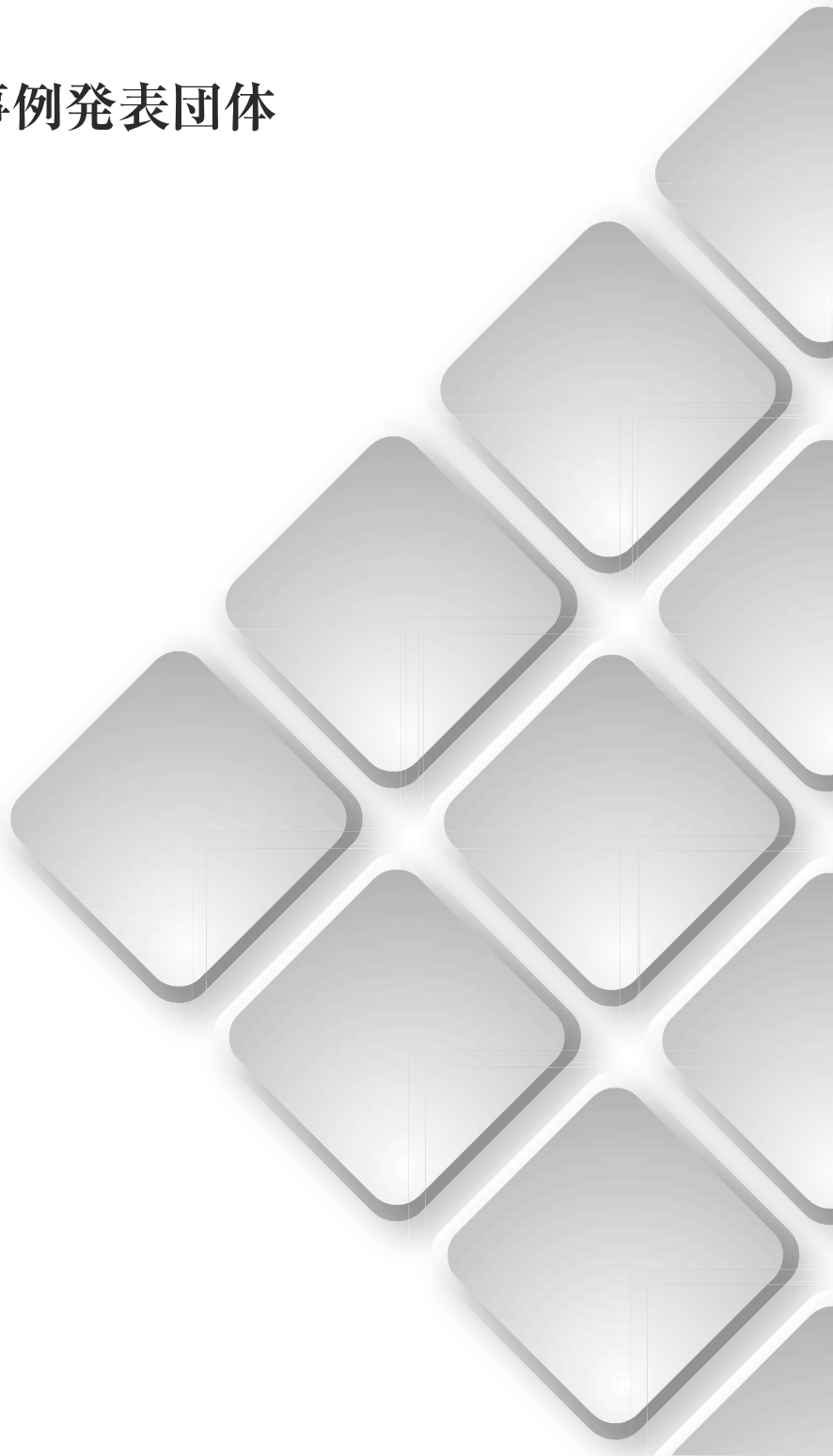


■ 活動事例

1 事例発表団体



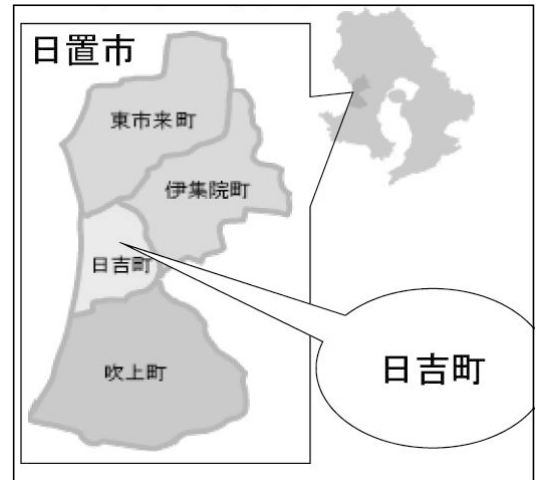
「小松帯刀を守る会」

日置市日吉町吉利 4 9 4 4

発表者：井上 幸一

会場の皆さん、こんにちは。400年余りの歴史をもち無病息災・豊年豊作を願う泥んこ祭りせっぺとべの町、日置市日吉町から参りました小松帯刀を守る会の井上であります。昨年、高齢者として仲間入りさせてもらいました。

日置市吉利は、日本の夜明け明治維新の立役者「幻の宰相」小松帯刀の故郷であります。また、帯刀公が眠る^{おんりん}園林寺もあり、更に小松家の菩提寺である清浄寺



には、帯刀公の像が建っており地元民を見守ってくれております。日置市は、平成の大合併により近隣4町が合併して人口53、000人余りをもって誕生いたしました。位置的には、薩



摩半島の西岸（根元）にあたり日本三大砂丘「吹上浜」をながめ、白砂青松・風光明媚・人情豊かで教育の町となっており、これまで多くの偉人を輩出しながら今日に至って参りました。

本日、この県民交流センターで、このような機会をいただいたのも小松帯刀公とのご縁であったことは勿論のこと、帯刀を守る会が地元の高齢

者クラブと連携を取り合い、一つの目的を掲げて共に取り組み歩き始めたものであったからだ と確信しております。昨年は、大河ドラマ篤姫で始まり終わった1年となりました。テレビ視聴率も高水位を保ち、大半の国民が釘付けとなりました。そして、多くの感動・涙・勇気を与えてくれました。

平成17年12月のある飲み方（飲ん方）で大河ドラマ篤姫の話題が誰となく出て参りました。さらに、このドラマに帯刀公が登場する情報を含めて話が弾み、これまでにない盛り上がりとなりました。その中で、小松帯刀の名を後世に語り継ぎたい、われわれが出来るものはないかという話



◆活動事例（小松帯刀を守る会）◆

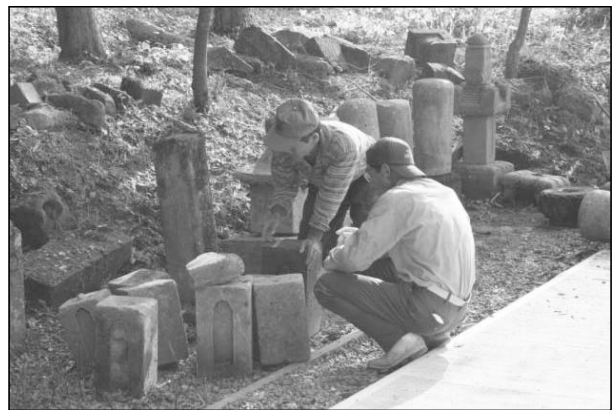
になり、その後、有志による話し合いを繰り返しながら平成18年4月に小松帯刀を守る会を立ち上げました。構成メンバーは18名で、うち11名が高齢者の皆さんとなっております。



小松会として、小松のことをもっと知りたいということになり、勉強会から始めました。幸いなことに、地元の大先輩・史談会で日々活躍しておられる同会のメンバーであられる原時重さん（80歳）に相談いたしましたところ、快く引き受けてもらいました。その後、原さんによる勉強会を数回お願いしまして、お互いに共

通の認識を得ることになりました。

小松会がこれまで取り組んだことについて、一部ご紹介させていただきます。手始めに、帯刀公と帯刀夫人お近さん、また第2夫人お琴さんや関係者が眠る小松家の菩提寺でありました園林寺周辺が雑木・カンネカズラが生い茂っておりましたのでこの整備からはいりました。墓地の管理は、小松家顕彰会で行われておりますが、周辺までは手がつけられない状況にありましたので地域内の方々にボランティア参加を呼び掛けまして、雑木伐採・草払い等を行いました。昨年は5回ほど行っております。また、この作業に青壮年部や高齢者クラブ、地域女性団体の参加をいただき、さらにお茶の準備もいただきました。



森林環境税を活用した事業によりまして、現地の立木・竹を利用したミニ休憩所やベンチを手作りで設置することができました。



また、桜の植栽、墓地内に入る参道に花を植えたりして園林寺周辺が様変わりしまして、訪れた皆さんから喜んでいただいております。その後、帯刀公の偉大な功績を後世に残したい、また、帯刀の名を全国に発信したい、地域の活性化につなげたい、観光の目玉にしたいという願いのもと、そのシンボルとなる小松像設置の機

運が高まってきました。そして、小松像設置実行委員会を立ち上げ、地域内外への募金活動に

入りました。

募金目標に到達しましたので、彫刻家の西俣先生により小松家の菩提寺清浄寺に平成19年12月25日に小松像の完成設置をみる事が出来ました。なお、この像の型枠は、鹿児島市の宝山ホール広場に設置されている小松像設置の中心的な役割を果たされた、今は亡き瀬野留吉さんのご家族が保存されていたものであり、快くご提供いただいたものであります。



帯刀公の墓前の空間が大変狭いということで、帯刀公自身も不満足な思いをされておられるのではないかと、また、来園者に不便をおかけしておりましたので、拡幅工事（幅1.5m、長さ16m）を行い、現在は帯刀公をお参りしやすい状況になっております。

今回の放映によりまして、全国から多くの方々が園林寺を訪れておられますが、これまで約65,000名余りに至っております。平日が100名くらい、土日が数百名、1月3日は800人余りの参拝者となりました。小松会としましては、来られた方々へ観光ボランティアガイドによりまして、ご案内・ご説明を行い大変喜ばれ、皆さん納得してお帰りいただいております。ボランティアのメンバーは主として原さん、下野さん、瀬野さんの3名が中心でそれぞれ自分の仕事をお互い調整しながら、ローテを組みました。その中心的役割を担っていただいているチーフ役が原さん（80歳）であります。これまでのガイド実績は延べ500日余りとなっております。ここで、ある日発生しました珍事について特にご紹介させていただきますが、ボランティア



参加者により、参道横に20本ほど植えた桜のある1本にまつわる出来事があります。ガイドへ想定外の質問がありました。「今時、桜の花が咲いてますね。・・・どうしてでしょうか。」

ガイドは答えました。「この花は、帯刀公の皆さん方を歓迎する気持ちが咲かせたのではないのでしょうか。」お客さんにもっこりうなずかれました。

ある夏の日、ガイドの原さんに異変が起こりました。昨年6月梅雨の頃でした。雨の中、傘をさしての説明でしたが、案内に集中のあまり、肩付近が雨に濡れていることが度々でした。

発熱して、とうとう肺炎で入院して医者にも案内を止められましたが、乗りかかった船だから

◆活動事例（小松帯刀を守る会）◆

途中で投げ出せないと1ヶ月で復帰され、以前より増して日焼けした顔で続行されております。

また、参拝者からの電話やお礼状が届くことがあり、活動を支えてくれたとボランティア3名の皆さんと話しております。帯刀公を演じた瑛太さんも撮影前と終了後の2回、園林寺を訪ね、帯刀公の墓前でお参りをされました。

また、仮矢崎省吾さん、鶴瓶さんも帯刀公に会いに来られ、参拝されました。

今回の篤姫放映により、鹿児島県の名を全国へ発信できたこと、観光の目玉としての経済効果や、ひいては未来を担う子ども達の教育に大きく示唆を与えてくれました。

ここまで、小松会の運営が概ね順調な経過をたどったのも小松会と地元高齢者クラブとの連携であったことは否めません。さらに、小松会の各スタッフがそれぞれの立場・役割を献身的に参画・行動いただいたことや、地域の理解・協力・後押しがあったからこれのだと思っております。感謝の気持ちで一杯です。

私ども小松会としましては、帯刀ブームが一過性で終わることなく、引き続き高齢者クラブと連携を取り合っ取組を続けていきたい。そして、元気高齢者につなげたいと話し合いを続けております。

是非、田植え踊り、せっぺとべの町、日置市日吉町へお越しいただきますことをお願い致しまして終わりたいと思います。 “マツチャゲテオリマス” ありがとうございました。